

# 肺病と髭：結核の通俗療法

名古屋外国語大学  
世界教養学部世界教養学科

教授 福田 真人

## 通俗療法の例

結核は長い間人類を苦しめて来た病気である。

そして、どのような治療法でも、色々試み、考案したのである。あらゆる種類の治療法を試みていたことは間違いない。

例えば、病気に罹り苦しむよりは、健康のために海風に遭うために船に乗ることが薦められた。海風（潮風）に含まれた滋養分があると考えられたのであるが、それとは別に波に漂うのがいいという事があった。波で揺られる船の動きは、似た動きをするブランコ（swing）が良いとの論文もあった。驚くことに、あの進化論を標榜していたダーウィン（Charles Darwin, 1809-1882）の祖父は医者のエラズムス・ダーウィン（Erasmus Darwin, 1731-1802）で、結核のブランコ治療あるいは予防に効果があると提唱していた。そこには、船舶の波間の船の揺れが健康に役立つと考えたのである。それに従ったのか、英国の詩人キーツ（John Keats, 1795-1821）は、イタリア・ローマでの転地療養（天候の良い場所に旅行してそこで治す試み）する前に、英国からオーストラリアへの航行を船医として結核から治癒する試みを真剣に考えていたのである。

フランスでも英国同様に海水浴が素晴らしい効果があると考えていた。フランスの病理学者として肺病研究に足跡を残し、また



レネック

本人も結核に倒れることとなったレネック（René Théophile Hyacinthe Laënnec, 1781-1826）は、海風が肺病に最も大きな治癒力を与えられると考え、自分の治療室で海藻を敷き詰めて患者を迎えたのである。病室に海藻類を敷

き詰めたのは、そのような海風を吸い込む事と同じ治療になると考えたのである。（勿論、よく知られたように、レネックの一大発案は、胸音を聴くための聴診器の発明であった。

肺病（結核）から直るには、とにかく休む事が推奨された。取り分け清浄な大気の中で安静（rest cure）にするのはいいと考えられた。大気療法（open air treatment）である。しかし、医学者が考えたのは、スイスなどの高山での安静だった。なぜスイスが高く評価され推奨されるに至ったのか。その理由は、スイスでは結核患者が少なかったからだった。何故なら、高山牧場はあれども、放牧される牛や羊に混じって移動し、外気に接し、また高山よりは低山での牧畜がより健康的であったと見做された。第一、山荘のシャレーは互いに離れていて、結核による直接感染の可能性が低かったので、罹患も発病も少なかったのである。しかし、医学者は気圧が低く清澄な低温の空気こそが結核に良い効果を表すと考えたのである。あたかも新しい患者への治療方法と予防法であると理論化したのである。（医薬が無かったので、こうした治療法が推奨された。後にヴィクトリア女王の侍医となったクラーク医師、Sir James Clark, 1788-1870、は、ローマで詩人キーツに治療を勧めたが、それは瀉血、下剤、軟膏、飢餓療法、そして乗馬運動だった。水銀療法を受けたのは、また別の問題だったのだろう。）酸素療法はこの後、強く指導された。

他にすぐスイス・アルプスが治療効果ありと認めたのは、ロリエー（Dr. Auguste Rollier, 1874-1954）の提唱した日光療法（heliotherapy）である。

さらにそれはデンマーク人フィンゼン（Niels Ryberg Finsen, 1860-1904）によって光線（人工太陽灯）が開発され、不治の病と恐れられていた皮膚結核・尋常性狼瘡（lupus）の治療に貢献したのである。1903年にはノーベル医学生理学賞を受賞している。

さらに水も医用の治療が行われた。水療法（hydrotherapy, hydrophathy, water-cure）と呼ばれて、

18世紀から流行したのである。他にはワインがいいと勧められた (wine cure)。それ以前に葡萄も栄養がいいとも考えられた (grape cure)。

### 薬、あるいは薬らしく作られたものを試す

日本では、近世の労咳 (癆瘵, 傳屍病) には、鍼灸と呼吸法が大事と考えられた。白隠禅師 (1685-1768) の『夜間閑話』では丹田呼吸法に特に鍛錬したとされる。尤も共に起居を共にすると禅宗の寺などで多数の坊主が労咳に罹り倒れたとされる。ずっと後に諸橋轍次が中国さえ成し得なかった『大漢和辞典』(1925-60) を完成した際には、辞書の編纂に参画した学者の中で5人が結核に倒れたことは思い出深い。

治療のためには、ゲテモノでも手を出した。それは通俗療法として中々の評価を得ていた。結核患者にとっては、東洋医学もさることながら、西洋医学の医療を受けることができたとしても、それには大変な医療費がかかることを知っていたからである。大変な負担を支払うことができた人々は少なかった。

例を知ってみるといい。例えばやがて東洋で最大規模となった茅ヶ崎の南湖院の料金表を見ると、X線写真撮影一回五円、院長診察料一回五円。正岡子規が日清戦争から帰国してきた神戸港で、結核症状を示して須磨浦保養院に入院した。それは同じ時期に重要な、そして最初の西洋病院では、その治療法もおおよそ似たり寄ったりだった。診察代のみならず、入院費が必要だった。寝具、食事費も日々かかってきた。すでに子規の新聞の給与は月給二十七円、窮状になることは目に見えていた。

とかげ いもり  
蜥蜴、井守の黒焼きなど、あらゆるものが効いておらず、それでも種類は無関係に試みられた。黒焼きは種々あって、動物のみならず植物も含まれていた。動物には爬虫類から哺乳類、鳥類、果ては昆虫類まで雑多であった。そして植物も花や歯だけでは終わらない、それこそ草根木皮というあらゆる種類が含まれていたと言える。

黒焼きの他に、青大将の肉と生き血、赤子の胎盤、

高麗人參、除虫菊、ニンニク (大蒜)、人肝 (膽)、人の太腿、鯉濃、そしていよいよ売薬となると良く名を知られた征露丸 (正露丸! 現在この名前に)、八つ目鰻、烏犀角、煎薬、などなど。

疑問を一つ。江戸時代に労咳に効くのは黒猫というのがあった。後に明治時代に結核に罹り失くした恋人を思い出したように、竹久夢二「黒船屋」という胸に抱く黒猫がいる。また夏目漱石の『吾輩は猫である』の主人公吾輩は黒猫で漱石共々妻の鏡子にも愛されたが、後に漱石が胃潰瘍で没しそうなときに黒猫が身代わりになって吐血して死んだと言われているのは病気の化身か。

### 医学療法と通俗療法：髭の責任

ヨーロッパで、ミルク、卵、葡萄酒、葡萄、牛肉スープ、ビール、水、肝油、アヘン (阿片) などの他に、海風が効くという風説もあった。医学者もそれに与った。瀉血 (四体液病理学説, humoral doctrine) と浣腸は大事な治療法だった。瀉血は全身から血を抜く方法が考えられたが、蛭による吸血も重要な方法だった。

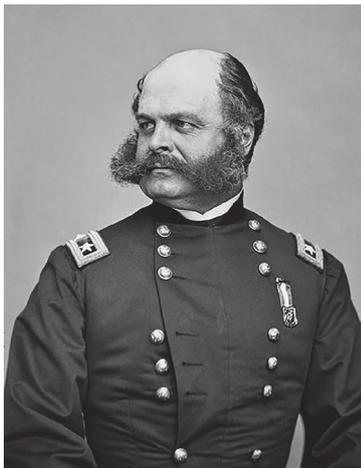
突飛な結核の治療、いや予防として髭を蓄える方法があった。髭が粒子や細菌を防ぐという意味があった。病気の原因には様々な可能性があり、空気中を飛散する菌 (あるいは雑物) が原因であるとした医学者がいる。すると髭は、鼻腔から肺に入ってくる菌を防ぐにはうってつけの身体的備え付けフィルターだった。

英国でも19世紀に、またフランスでも結核予防に効果があるとまことしやかに言われていた。クリミア戦争で戦った英国兵士は、堂々と髭を蓄えたが、それ以上に呼吸器系の疾病に防護の役に立てたのである。

しかし、1901年アメリカのニュー・ヨーク州では、牛乳の衛生のためにミルクマン、乳搾りの作業者に髭を剃るように求めた。また1909年のフランスでは、レストランの給仕が衛生のために髭を剃るように命じたのである。

結局髭の扱いのことは不分明でよくその療法についての判断が分からない。

この2021年から殷賑を極めた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は大騒動を起こしたが、今年の2022年3月までに既に世界で5億人が感染し、600万人が犠牲者になった。



軍人のための髭・19世紀米国

1918年に降り掛かったインフルエンザの疫病では、少なく見積もっても2,800万人の犠牲者を被ったが、日本だけで38万人の死亡者が出た。その際、全く同じ医学的（通俗的）試みが出てきたが、それはマスク、嗽、手洗い、三密を防ぐ、

沈黙、握手と抱擁の防止、ワクチンの試みが用いられた。

その際に、髭を帯びておくとマスクの効果が減じるという事が論じられた。それは、現在の新型コロナウイルス感染症でも議論が姦しい。不織布マスクや、二重掛けが効果的であるとか。

髭（頬であれ鼻の下であれ）はかつて結核の予防に役立つ事が論議の対象になっていたのである。🐼

#### 参考文献

G.Norman Meachen, A Short History of Tuberculosis, John Bale, Sons & Danielson, 1936.

福田真人『結核の文化史』名古屋大学出版会、1995.

## 📖 書籍だより

2022年1月～2月に紀伊國屋書店新宿医書センターにて、結核予防会の書籍を取り上げていただきました。

今年度も一般の方々が手に取る機会をいただきましたことを御礼申し上げます。🐼

